

インターバンクの声（2015年7月23日）

アジア市場だけでなく、欧米市場でも相場を大きく動かすような材料に乏しい状態が続いているが、昨晚のニューヨーク市場は、前日の午前中にドルが大きく下げたのとは対照的にドルが反発する動きを見せた。今週注目されている一連の米住宅関連指標の先頭を切って発表された6月の米中古住宅販売件数が8年4ヵ月ぶりとなるような好結果だったことや、原油を中心とした商品価格の下落に支えられてドルが買われたようだ。それでも前日の引け後に発表されたアップルなどのハイテク企業の決算が市場予想よりも悪かったことなどが響いたせいも、ナスダック総合指数だけでなくダウ平均も値を下げたまま取引を終えている。ハイテク株の低調さを銀行株の上昇が支えたため、下げ幅が拡大することはなかったが、企業決算に若干の不透明さも見え隠れしており、中古住宅販売の数字だけで米連邦準備理事会（FRB）の年内利上げへの確信を強められない気もする。金曜日の新築住宅販売の数字や来週の連邦公開市場委員会（FOMC）までは方向感のない相場が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。